

三十一冊
15

011
176

永七通二月上旬

御用酒

六卷目

0433

御坊村文書 文書番号 006

3m 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27

011
176

御坊村通に於ける月半の御坊村
しるしを記す

御坊村

村
店
行

0434

御坊村文書 文書 006

3m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26

約紙通御勅是實所決疑名在字
上通在字間而曰博言人仁義

平

徐子恒藏

七组大店完

八國軍之金戈掃下
 千區之烽火
 萬里之風塵
 此其所以為心
 也夫
 乃安依之東伯侯
 乃安依之西伯侯
 乃安依之南伯侯
 乃安依之北伯侯
 乃安依之東伯侯
 乃安依之西伯侯
 乃安依之南伯侯
 乃安依之北伯侯

今所番細編有八種近來海濱也
其船有之海濱也且古其海濱也
海濱也海濱有之海濱也海濱也
海濱也海濱也海濱也海濱也
海濱也海濱也海濱也海濱也
海濱也海濱也海濱也海濱也
海濱也海濱也海濱也海濱也
海濱也海濱也海濱也海濱也

海濱也海濱也海濱也海濱也
海濱也海濱也海濱也海濱也
海濱也海濱也海濱也海濱也
海濱也海濱也海濱也海濱也
海濱也海濱也海濱也海濱也
海濱也海濱也海濱也海濱也
海濱也海濱也海濱也海濱也
海濱也海濱也海濱也海濱也

此は御坊村の目録に對しては拂ふ
たるべきものなり
長年松山に在りて

由文通に在りて是は御坊村
に在りては是は御坊村
に在りては是は御坊村

大通

右村御坊村に在りては是は御坊村
に在りては是は御坊村
に在りては是は御坊村
に在りては是は御坊村

お淑子さまは江戸へお出でなす

つ 轉々在り来れり所迄お出でな

つ 元年に江戸へお出でなす及

ひきと下りお出でなす御門へ

表お出でなすお出でなす

了

お淑子さまは江戸へお出でなす

お淑子さまは江戸へお出でなす

宣二月

後七ヶ村庄屋

お淑子さま

右邊五ヶ所あるに一冊七ヶ所
村邊人より取らるるものなり

附之文江

台岡基助
十山山助

五ヶ所ある

川紙通達書之今書
り、村邊人より取らるるものなり
多量あり

珍本懐紙

左の如く、
御坊村の
御坊村の
御坊村の
御坊村の

御坊村

御坊村

御坊村

御坊村

御坊村

御坊村

御坊村

御坊村

日村
之七通

北平
其自

二月廿六日

あゝ通

近頃意之如付銀之店代替之人
林邊村之通は後通の只為り
一

二下

浜父方所

村
之店中
町費

日之影を射他三、四張を、

紙に、

此紙を、所有、方、在、東京、

二月

日之影を射他三、四張を、

紙に、

此紙を、

中村大仙

日之影を射他三、四張を、

紙に、

二月

日之部一田部

文左邊

日部抄集

文左邊

文左邊

此部意之部有誤解

二月

日之部一田部

文左邊

日部抄集

文左邊

此部意之部有誤解

二月

0447

胡波通此實之（後）
蕭子良之子為名

二月九日 謝之序

文友の百次志の紙に
！海を舟にまかせ

陰中懷就

許人出而展

日之部 尾浦
文書集

天田 雄次郎
節子 妻 柳 文子 在
二月

古
文書

利 誠 有 信 証 村 子 文 書 集
天 田 雄 次 郎 妻 柳 文 子 在

節子

柳 文 子

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書
御坊村文書
御坊村文書
御坊村文書
御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書
御坊村文書
御坊村文書
御坊村文書
御坊村文書

日部
御坊村

此書は御坊村の歴史を記すものである
御坊村の歴史は古くからある
御坊村の歴史は古くからある
御坊村の歴史は古くからある

御坊村の歴史は古くからある
御坊村の歴史は古くからある
御坊村の歴史は古くからある
御坊村の歴史は古くからある

御坊村の歴史は古くからある
御坊村の歴史は古くからある
御坊村の歴史は古くからある
御坊村の歴史は古くからある

右

清江浦在江陰之西
江陰在清江浦之東
清江浦在江陰之西
江陰在清江浦之東

[illegible]

樹皮灰
肝膏

引紙海山島葉子灰は
舟ちり海揚き重なり
字にまじり

吟水使紙

二目

浦島
に似花

紫書文の紙は
ては書

引紙海山島葉子灰は
舟ちり海揚き重なり
字にまじり

徳川家

御用金

外に
御用金

徳川家

御用金

金

金

徳川家

0456

御坊村文書

006

3m 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27

川紙通し合

年最長出 経典の位 通中
此の所 同言 通 却 是より 中 年 最 長
身 乃 心 通 中 年 最 長

松江右衛門

二月

以之 親
書 經 通 中 年 最 長

美 國 船 近 海 通 中 年 最 長
知 乃 心 通 中 年 最 長

後之世に有るは其方一應に
之より其郡に於て其方一應に
可なり其郡に於て其方一應に
切於其方一應に其方一應に
其方一應に其方一應に其方一應に
其方一應に其方一應に其方一應に

二月

其方一應に其方一應に其方一應に

其方一應に其方一應に其方一應に

浦賀表に於て其方一應に其方一應に
其方一應に其方一應に其方一應に
其方一應に其方一應に其方一應に
其方一應に其方一應に其方一應に

東の國より來りて又下りて
一乃舊金印法を爲る者なり
美事なり由は法に依りて
陳國より來りて又下りて
乃舊金印法を爲る者なり

但

我々も佛に依りて又下りて
乃舊金印法を爲る者なり
美事なり由は法に依りて
陳國より來りて又下りて
乃舊金印法を爲る者なり

在りて又下りて又下りて

正月

大正四年四月廿一日

御坊村文書
御坊村文書
御坊村文書
御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書
御坊村文書
御坊村文書
御坊村文書

多摩川の水は清く流るる

谷中村

の

七世大徳

大徳の法門は世に傳へられ
先師の教を奉じて修行せしむる
人ありては世に尊ぶるべし
此の如くは世に尊ぶるべし
世に尊ぶるべし

0461

御坊村文書 006



河内村長官へお礼状

二月

河内村長官へお礼状
河内村長官へお礼状
河内村長官へお礼状
河内村長官へお礼状

河内村長官へお礼状
河内村長官へお礼状
河内村長官へお礼状
河内村長官へお礼状

河内村長官へお礼状

河内村長官へお礼状

河内村長官へお礼状



0462

御坊村文書 006



御代は元高春御領に
元高春御領に
元高春御領に
元高春御領に
元高春御領に
元高春御領に
元高春御領に
元高春御領に
元高春御領に
元高春御領に

御代は元高春御領に
元高春御領に
元高春御領に
元高春御領に
元高春御領に
元高春御領に
元高春御領に
元高春御領に
元高春御領に
元高春御領に

御代は元高春御領に
元高春御領に
元高春御領に
元高春御領に
元高春御領に
元高春御領に
元高春御領に
元高春御領に
元高春御領に
元高春御領に

壬寅年八月廿四日
 御坊村
 御坊村

御坊村
 御坊村

御坊村
 御坊村
 御坊村

0465

御坊村文書 006



御坊村文書

近年は雨多し水不足なり
 御坊村は水不足なり
 御坊村は水不足なり
 御坊村は水不足なり
 御坊村は水不足なり

御坊村は水不足なり
 御坊村は水不足なり
 御坊村は水不足なり
 御坊村は水不足なり
 御坊村は水不足なり
 御坊村は水不足なり
 御坊村は水不足なり
 御坊村は水不足なり
 御坊村は水不足なり
 御坊村は水不足なり

御坊村文書
御坊村文書
御坊村文書
御坊村文書

ら

御坊村文書
御坊村文書
御坊村文書
御坊村文書

御坊村文書

三

御坊村文書
御坊村文書

0467

御坊村文書

006

3m 10 20 21 22 23 24 25 26

大船運送飛舟用は楠板板大板力個
外は民治宗より用事作らるる此村の海
たるに趣きあり

ふりて津田殿より名板板より大板力個
より出方役人の名を有る大板力個
より出方役人の名を有る大板力個
より出方役人の名を有る大板力個

右の海
ふりて

御封紙 海江修治の事

二月廿二日

御封紙

付 此紙は海江修治の事
未納者あり 存す 御封紙

御封紙 海江修治の事

御封紙

二月廿二日

湖見寺在安房
湖之東名安房
小池甚七反
湖又安房
陽州國府居

湖見寺在安房
山田作安房
湖之東名安房
湖又安房
陽州國府居

市川海老名氏に宛てて

日 佐藤
日 宇野

市川海老名氏に宛てて
市川海老名氏に宛てて
市川海老名氏に宛てて
市川海老名氏に宛てて
市川海老名氏に宛てて

二月

目

全
ら
夏
湯川園蔵

由
ら
夏
湯川園蔵
水納

全
ら
夏
湯川園蔵

由
ら
夏
湯川園蔵

全
ら
夏
湯川園蔵

金八両五匁金重通

由 持月五匁

注

多面五匁五匁

日五匁五匁

中池基七

日八匁五匁

御信村作

一日之百女
諸君各部

一日之百女
諸君各部

一日之百女
山田佐治

一日之百女
佐治

一日之百女御殿

一日之百女御殿

一日之百女御殿

一日之百女御殿

一日之百女御殿

川陸海之経路可なり
多由(白)清江司之経路可なり
入る事海より在るなり
なり(白)清江司之経路可なり
なり(白)清江司之経路可なり

御坊

一、大田重家(長子)の
多由(白)清江司之経路可なり
入る事海より在るなり
なり(白)清江司之経路可なり
なり(白)清江司之経路可なり

得利致元在商河河一河一河一河

二一

田瑞興
勸業使

三

瑞興

瑞興

瑞興

瑞興

瑞興

瑞興

瑞興

瑞興

瑞興

瑞興

御坊村文書

上條村文書

御坊村文書

之

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

古くは病を治すに

世母之夢乃覺之乃起而作之
 中書曰人之夢也乃起而作之
 中書曰人之夢也乃起而作之
 中書曰人之夢也乃起而作之

[illegible]

大正五年前

[illegible]

大向山

大向山

大向山
大向山
大向山
大向山
大向山

大向山

大向山

大向山

大向山

大向山

大向山

大向山

大向山

手書
御坊村文書
006

御坊村文書
御坊村文書
御坊村文書

御坊村文書
御坊村文書

御坊村文書
御坊村文書

0486

御坊村文書 006

3 m 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26

利根、海軍用、中、江、連、山、村
 江、連、山、村、御、藏、書、院、藏、書
 江、連、山、村、御、藏、書、院、藏、書
 江、連、山、村、御、藏、書、院、藏、書
 江、連、山、村、御、藏、書、院、藏、書
 江、連、山、村、御、藏、書、院、藏、書

江、連、山、村

江、連、山、村

七、組、大、庄、屋

江、連、山、村

江、連、山、村、御、藏、書、院、藏、書
 江、連、山、村、御、藏、書、院、藏、書
 江、連、山、村、御、藏、書、院、藏、書
 江、連、山、村、御、藏、書、院、藏、書
 江、連、山、村、御、藏、書、院、藏、書

西漢後漢唐文淵閣
書

真面目

目之類中大店在依那去三月合帳目
他國製茶筒茶九茶方即平名清茶
在月之茶方在子夜、我國家茶筒茶出是時
而後他國製茶筒茶九茶方、依那茶方在
計帳名和茶方、子夜依那茶方、

茶方

茶方創在法林

在井村

古唐氏三福
新田氏三福
古田氏三福
北田氏三福
萬年氏三福

予一之井村
お二印
和月

0489

御坊村文書 文書番号 006



御坊村文書
御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書
御坊村文書

御坊村文書
御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書
御坊村文書

其後よりわが國に在るもの
 一、其の多きもの、其の少きもの
 其の多きもの、其の少きもの
 其の多きもの、其の少きもの
 其の多きもの、其の少きもの

其の多きもの、其の少きもの
 其の多きもの、其の少きもの
 其の多きもの、其の少きもの
 其の多きもの、其の少きもの
 其の多きもの、其の少きもの

九十九番の酒を飲むに
酒の味は苦い
酒の味は苦い
酒の味は苦い

り

酒の味は苦い

酒の味は苦い

酒の味は苦い
酒の味は苦い
酒の味は苦い
酒の味は苦い
酒の味は苦い
酒の味は苦い
酒の味は苦い
酒の味は苦い
酒の味は苦い
酒の味は苦い

別紙通文
 左の如く
 御座候
 御座候
 御座候
 御座候

御座候

御座候

御座候

御座候

御座候
 御座候
 御座候
 御座候

の目録

珍本恒流

御坊村文書
御坊村文書

御坊村文書
御坊村文書

御坊村文書

珍本恒流

目之部近村

抄本向金 招金

二平七

日部川至村

茂吉五七

上七

村部

行部方中 冬付 古金 招金

正有 冬付 招金 招金

冬付 招金 招金

冬付 招金

冬付 招金

御坊村

村部

市ノ名也。此ノ地ニ在リ。其ノ地ノ名
ハ。市ノ名也。此ノ地ニ在リ。其ノ地ノ名
ハ。市ノ名也。此ノ地ニ在リ。其ノ地ノ名
ハ。市ノ名也。此ノ地ニ在リ。其ノ地ノ名
ハ。市ノ名也。此ノ地ニ在リ。其ノ地ノ名

市ノ名也。此ノ地ニ在リ。其ノ地ノ名
ハ。市ノ名也。此ノ地ニ在リ。其ノ地ノ名
ハ。市ノ名也。此ノ地ニ在リ。其ノ地ノ名
ハ。市ノ名也。此ノ地ニ在リ。其ノ地ノ名
ハ。市ノ名也。此ノ地ニ在リ。其ノ地ノ名

新編
 新編

子伯氏慶之の九子
竹節子周子行多子大調子
河清子有子多子多子
多子多子多子多子

上野酒の汁に料をいれ大湯
に煮ゆりしに
酒をいれ煮ゆりしに
酒をいれ煮ゆりしに

金少陵

謝安石

清江寺

住持

川紙通在江戶村家名

半角圓

江戶村家名

井底

江戶村

村之庄屋中
所實

吾村は舊有より一に此郡也
昔年より此郡に属する所あり
其時此地に此郡に属する所あり
其時此地に此郡に属する所あり
其時此地に此郡に属する所あり

北

我々（今）は此郡に属する所あり
其時此地に此郡に属する所あり
其時此地に此郡に属する所あり
其時此地に此郡に属する所あり
其時此地に此郡に属する所あり

村中實

土曜大庄屋宛

0503



常一子之(一) 望言今も言金
紙(通) 用(中) 上(江) 田(田) 公
御島(中) 中(中) 中(中) 中(中) 中(中)
中(中) 中(中) 中(中) 中(中) 中(中)

中(中) 中(中) 中(中) 中(中) 中(中)

松尾夜彦

口(口) 口(口) 口(口) 口(口) 口(口)

余(余) 余(余) 余(余) 余(余) 余(余)
中(中) 中(中) 中(中) 中(中) 中(中)
中(中) 中(中) 中(中) 中(中) 中(中)
中(中) 中(中) 中(中) 中(中) 中(中)
中(中) 中(中) 中(中) 中(中) 中(中)



0504



仁目之

利根(海)行船に後々、海客たる

いふ事、いふ事、いふ事、いふ事

いふ事

之りて

海客

利根

利根(海)行船に後々、海客たる

いふ事、いふ事、いふ事、いふ事

いふ事

之りて

海客

利根

人地音々人々何れも...
今

...
...
...

都て...
...
...
...
...
...
...

外百...
...

但...
...

...
...
...
...
...
...

舟より下りて是處より舟を御座り
申すに此船より舟信地を往來
申すに此船より舟信地を往來
申すに此船より舟信地を往來
申すに此船より舟信地を往來

五月
松尾清光

訪即

舟より下りて是處より舟を御座り
申すに此船より舟信地を往來
申すに此船より舟信地を往來
申すに此船より舟信地を往來
申すに此船より舟信地を往來

利成通北佐治の村字を
守るものなり此等なる不潔候あり
お尋ねなすつてよき

御入倉所

村之庄屋
所
所

左名取者利成の村字を
守るものなり

御入倉所

御入倉所

2

・ 生 多 百 姓 女 一 一 〇 〇

日

杉 多 子 七 七 七

三 七 七 七 七

杉 多 子 七 七 七

杉 多 子 七 七 七

杉 多 子 七 七 七

杉 多 子 七 七 七

杉 多 子 七 七 七

杉 多 子 七 七 七

杉 多 子 七 七 七

杉 多 子 七 七 七

杉 多 子 七 七 七

杉 多 子 七 七 七

杉 多 子 七 七 七

杉 多 子 七 七 七

杉 多 子 七 七 七

杉 多 子 七 七 七



0512

御坊村文書

文書
番号

006

3m 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27